

< 第3回親水空間ワーキンググループでの主な意見(平成26年1月28日開催)>

・：委員からご意見 ：事務局の回答・質問

B池上部利用計画の検討について

【ゾーニング】

- ・大きいゾーニングとして、B池の北側が動的な空間、南側が静的な空間となるのではないかと。
- ・動と静のゾーンをフェンスで仕切るのは賛成である。
- ・フェンスは階段の上まで設置し、法面に人が入れないようにするのも一つの手ではないかと。そうすれば、静のゾーンは独立した形になり、生き物にとってより落ち着いた空間となる。

法面をどこまで静的なゾーンに取り込むか等については、次回の親水空間WGで提案する。

【ビオトープ池・水遊び池】

- ・水遊び池は前回の案より一回り小さくなった形だが、池の水はどういうものを使うのか。
B池周辺の地下水である。
- ・水遊び池は、境川遊水地のせせらぎ水路の池のようなものか。
親水空間ワーキンググループとして、B池はどのようなイメージの水遊び池が適切か、意見を頂きたい。水遊び池は、人工的なものから自然度が高いものまで幅があり、境川遊水地はその中間的なイメージといえる。
- ・導入機能としては、水遊びができる人工的な場所があった方が良く思う。
- ・ビオトープ池は、ある程度自然性が高い場所、自然観察ができる場所として、植栽や生き物の配置ができれば良いと思っている。
- ・水遊び池からの水路は、一次池の上流の方に流すと、子供達が水辺で遊べる部分が増えると思う。
- ・少ない水を有効に利用するならば、水遊び池の配置を今よりデッキ側に近い所へ移動させたほうがよい。
- ・境川遊水地の水遊びができる池の大きさはどれくらいなのか。
- ・遊べる空間と休憩する空間を含めると15m×15m程度である。100～150㎡くらいの大きさがあれば、夏場500人くらいの親子が遊ぶことができる。
- ・水遊び池は、長久保公園のカワセミがいる池のように、池自体は平らで、コンクリートで段差をつけるような池でも良いと思う。
- ・池底は、玉砂利のようなものであれば足にも優しい。
- ・デッキは、栈橋型にして水が深いところの手前くらいまで出られるようにし、水面が見渡せるようなものを一本作ってはどうか。
- ・デッキ等の脚は、木質系のプラスチックの擬木などで作ってしまった方が、メンテナンスのことを考えると良いのではないかと。
- ・デッキから水面までの距離は、もう少し近い方が良く思う。

水遊び池やデッキについて検討し、次回の親水空間WGで提案する。

【エコトーン・植栽】

- ・エコトーンは、種類を限定するのではなく、バラエティー豊かにちりばめていくべきだということが良いのではないかと。
- ・親水広場は、クローバーやオオバコの草地のようなものになると思うが、木は必要なのか。
- ・チガヤの草地を目指しても良いのではないかと。

植栽計画等については、親水空間WGの検討内容が今後の実施設計段階において反映されるようにまとめる。

【中の島】

- ・大庭遊水地や裏門公園等から推測すると、中の島はヤナギが生えてきて水際からヨシが上がってきてという感じになると思う。

- ・全部の斜面が同じ角度というのはおかしい。カワセミなどは、粘土を叩いてオーバーハングのような形にしてやらないと繁殖しない。
 - ・境川遊水地の護岸は蛇籠で固めているので、エコトーンがあまりない状況になっている。
 - ・エコトーンに配慮するならば、法面の角度に変化をつけるべきであると思う。
 - ・礫層のような草が生えない環境があっても良い。エコトーンだけでなく、メリハリを持たせることで植生等がコントロールできるかもしれない。
- 中の島は変化を持たせて、4回目で提案する。

B池の導水計画について

- ・水遊び池の水は、C池やD池から導水する水が含まれるのか。
- B池の水遊び池に導水する地下水はB池周辺のものだけである。C池とD池の地下水はC池の一次池を通過してB池のピオトープ池へ導水する計画である。

以上